

7-19. 伝承文化

(1) 現況調査

① 調査内容

A. 既存資料調査

対象事業実施区域および周辺における伝承文化を把握するため、以下の資料を収集・整理した。

- ・日野町「近江日野の歴史 民俗編」(2008)

B. 聞き取り調査

既存資料調査を補完するため、地元集落の有識者に対して聞き取り調査を行った。

② 調査結果

A. 既存資料調査結果

対象事業実施区域周辺における伝承文化を図7-19-1に示す。

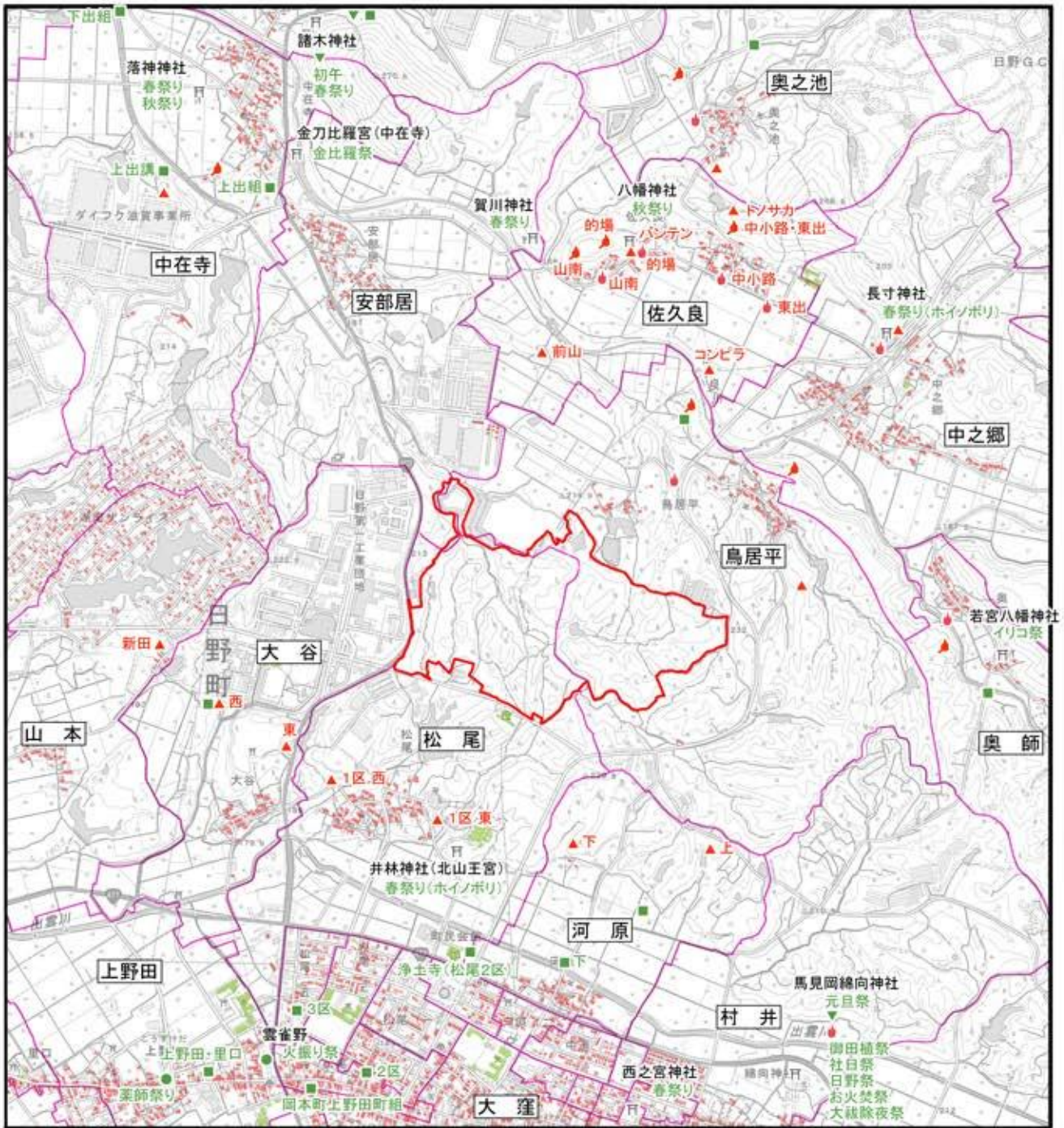
対象事業実施区域内では既知の伝承文化の記載はないが、周辺では複数の山の神祭りが継承されていると記載されている。

B. 聞き取り調査結果

対象事業実施区域が含まれる鳥居平および松尾1区の有識者に対して聞き取り調査を行ったところ、区域内に存在する電気溜^{でんきだめ}(p. 30、図4-1-11参照)について、鳥居平区の住人でマンボ(井戸掘り)の技術が優れた人がおり、その技術を新田の用水確保に応用した、との情報が得られた。ただし、電気溜^{でんきだめ}はかつては水田用水に利用されていたが既に使用されておらず維持管理もされていないため、保全の意向はないとのことであった。

・電気溜^{でんきだめ}の名称について

鳥居平新田側の水田用水確保のため、対象事業実施区域内の谷筋にため池を設け、池の横に縦に掘った井戸からため池に横穴をつないで電気仕掛けで揚水を行ったことから、この名称になったと言われる。



出典：日野町「近江日野の歴史 第6巻 民族編 付図」(2008)

(2) 予 測

① 予測内容

造成工事による土地の改変、供用後の工場等施設の稼働による伝承文化への影響について予測した。

② 予測方法

現況調査結果をもとに定性的に予測した。

③ 予測結果

対象事業実施区域の周辺に伝わる山の神祭り等の伝承文化については、造成工事による伝承文化の場への直接的な影響はなく、区域内を通行するルートもないことからアクセスに対する影響もないと予測される。

対象事業実施区域内に存在する電気溜については、既に使用されておらず保全の意向はないとのことであった。造成工事により消滅するが、地域にとって伝承すべき事項であることも考えられるため、記録保存の方法について日野町教育委員会と協議する。

(3) 評 価

① 評価の方法

評価は、環境の保全上の目標と予測結果および環境保全のための措置を対比し、その整合性を検討するとともに、伝承文化への影響が実行可能な範囲内で回避または低減されるか否かについて検討することで行った。

② 環境保全のための措置

なし。

③ 環境の保全上の目標

伝承文化の環境の保全上の目標は、生活環境の保全上支障を招かないことを基本として、次のように設定した。

伝承文化の継承に支障を生じないこと。

④ 環境の保全上の目標との整合性の検討

対象事業実施区域の周辺に伝わる山の神祭り等の伝承文化については、造成工事による伝承文化の場への直接的な影響はなく、区域内を通行するルートもないことからアクセスに対する影響もないと予測されることから環境の保全上の目標と整合している。

対象事業実施区域内に存在する電気溜については、既に使用されておらず保全の意向は

ないとのことであった。造成工事により消滅するが、地域にとって伝承すべき事項であることも考えられるため、記録保存の方法について日野町教育委員会と協議することから環境の保全上の目標と整合している。

⑤ 評価

伝承文化に対する影響の予測結果と環境の保全上の目標に整合が取れていることから、実行可能な範囲で影響を回避または低減できていると評価する。

(memo)